

第612回

九州朝日放送番組審議会議事録

—— 2019年4月度 ——

開催日時：2019年4月15日(月)

◇ 議題

<テレビ番組>

「九州朝日放送 創立65周年記念 羽鳥×宮本 福岡好いとお」

<放送日時>

2019年1月28日(月)よる6時30分～8時00分

◇ その他

「2018年度下期の番組種別の公表報告」

第612回 番組審議会議事録

1. 開催年月日 2019年4月15日(月)午後3時25分～5時00分

2. 開催場所 九州朝日放送 本社役員会議室

3. 委員の出席

委員総数 8名

出席委員数 6名

委員長	野田	幸之輔
委員	井手	雅春
委員	安恒	万記
委員	守田	有理子
委員	赤木	由美
委員	鶴	利絵

放送事業者側出席者名

代表取締役社長	和氣	靖
取締役	笹栗	哲朗
取締役 総合編成局長	森	君夫
ラジオ局長	穴井	建一
報道局長	臼井	賢一郎
コンテンツ局長	佐伯	拓史
コンテンツ局制作部長	濱田	克則
コンテンツ局制作部 プロデューサー	藤村	翼
番組審議会事務局長兼視聴者・広報室長	井上	千秋
番組審議会事務局（視聴者・広報室）	松永	俊郎

4. 議 題

- (1) テレビ番組 「九州朝日放送 創立 65 周年記念 羽鳥×宮本 福岡好いとお」
＜放送日時＞ 2019年1月28日(月)より6時30分～8時00分
- (2) 2018年度下期の番組種別の公表報告
- (3) 2019年4月・5月 ラジオ・テレビ番組編成状況の報告
- (4) 2019年3月 視聴者・聴取者応答状況の報告
- (5) その他

5. 議事の概要

◎委員の意見（概要）

委員からは、

- 開局65周年記念企画として東京以外のローカル番組で初のレギュラー出演という羽鳥慎一さんを起用しての番組制作に、KBCの強い意気込みを感じた。スマートで少しシュールな羽鳥さんと人懐っこい印象のKBC宮本啓丞アナウンサーは対照的でいてバランスが良く、とても楽しく番組を見ることができた。キー局の看板番組とKBCの看板番組の両方の強みを生かした期待通りの番組だった。
- 視聴率競争が厳しいゴールデンタイムでの放送は、キー局の制作番組との勝負になるため、高いレベルと質が要求されたと思う。キー局の番組配信という楽な道を選ばず、自社制作にこだわりながら地域ナンバーワンメディアを目指すKBCのチャレンジ精神に改めて敬意を表したい。
- 12カ月で羽鳥さんが福岡を好きになるかならないかという番組コンセプトだが、単なる福岡の穴場や情報を伝えるだけに終始せず、羽鳥さんを介して視聴者が自分事として捉えられる面白い構成だった。福岡を知り尽くしたKBCだからこそできる番組だと思ったし、KBCが蓄積してきた情報や取材力、地域に根差した話題を視聴者に届ける番組だと思った。
- パネル説明の本家といわれる羽鳥さんを横に、KBC宮本アナウンサーがパネルを使って番組を進行する企画は面白かった。LinQの高木悠未さんはちょっぴり天然で良いキャラだと思ったし、石原良純さんやバンクブーの黒瀬純さんもいろんな場面でタイミングよく話題に参加していて楽しかった。まさに全員野球のような良い番組に仕上がっていた。
- 炭鉱会社が発行した昔の新聞に掲載されていたスペシャルゲストの加藤一二三さんの記事は本当によく見つけてきたなと感心した。本人もご存じなかった新聞記事からは、地元ならではの情報が出てくる場面もあり、ゲストに関する取材の綿密さが番組の楽しさの裏打ちをしていた。また、棋士としての加藤さんの姿をしっかりと引き出していたと思う。

などの評価を頂きました。

一方、気になる点や望むこととして、

- 90分の放送時間が長すぎたせいか、内容が盛りだくさんで、少し食傷気味になってしまった。また、アピールポイントが豊富な福岡市の情報に偏っていたように思う。放送を重ねるごとに県内全体へと広がるのだろうが、各所で「福岡好いとお」となるような地域の魅力の発掘をお願いしたい。
- 番組は「勝ち組」福岡の秘密を探っていくもので、多様な視点からの分析は興味深い内容だったが、移住者の表現を借りてではあるものの、人も企業もお金も引きつける福岡の魅力を「ブラックホール」と表現していた部分にはあまり感心できなかった。これだけの発信力がある都市の比喻として、適切な言葉ではないと感じた。
- 糸島の開発や人口増加率が映像と共に示されたが、都市化には負の側面もある。プラス面だけを捉えていいのかと疑問に思った。福岡の何を「よい」と伝えたかったのか分かりにくかった。

などの批評や提言を頂きました。

これらに対して、担当者からは、

- 「羽鳥慎一モーニングショー」と羽鳥さんの人気は福岡でも非常に高い。また、「アサデス。KBC」の好調さは東京にも伝わっており、羽鳥さんとKBC宮本アナウンサーのかけ算は必ず大化けすると説得に当たり、出演に至った。
- 構成について、今回の番組ではスタジオで生放送のように展開して収録をしたが、出演者が面白いコメントを連発するため、編集段階で割愛できなくなった。結果、構成時に内容を詰め込み過ぎた。情報過多の印象を与えた感は否めず、今回得たノウハウは今後の番組制作に役立てたい。
- 福岡の魅力を「ブラックホール」と表現していた部分について、スタッフ間の打合せで「福岡にハマる人がいる」との会話の中からキーワードとして連想し、面白さから使った側面は否めず、今後は別の表現を検討したい。
- 制作に際し、羽鳥さんの立ち位置が一番難しかった。定石では羽鳥さんが進行役だが、羽鳥さんが知らない福岡を紹介するのもおかしいと議論を重ね、KBC宮本アナウンサーが主導、羽鳥さんは基本的にリアクターとの形に至った。羽鳥さんとKBC宮本アナウンサーの相性は抜群に良い。
- 制作サイドとしては毎月一回の特番を制作しているような感覚でいる。ただし、番組は日々の情報の集め方や取材、ロケ、演出の仕方に至るまで、実はデイリー番組の延長線上にあると考えている。スタッフ間では、普段のレギュラー番組を丁寧にこなし、月イチの大型番組に取り組もうと意識を共有している。

などの説明をしました。